

週報

2023年度 教会標語

「礼拝に集おう！主に癒され、整えられて」

<先週の説教から>

『ルカ③ 一主の天使が現れる時』

武田真治牧師

ダニエル書 10:1-15 ルカ福音書 1:11-17

『ルカによる福音書』の三回目ですが、読み進めていくうちに考えなければいけないテーマが時々出てきます。今日の箇所もまさにそうで、それが“天使”です。即ち11節「すると、主の天使が現れ、香壇の右に立った。」と、何の前触れもなく、いきなり「天使」が登場して来るからです。

「天使」は旧約聖書の言葉で(マルアーク=遣わされた者)と言われ、人間にも使われます(=申命記2章でモーセが遣わした使節等)、ほとんどは神様が地上に遣わした使者に用いられています。この言葉のギリシア語訳が(アンゲロス=知らせを運ぶ者)で、後のエンゼルの元になった言葉です。ただ、神様のご計画やみ目が伝えられる方法は<預言>として与えられたり、<夢や幻>として与えられたりしますし、その仲介を為す存在も通常は“聖霊”が果たします。今日の箇所のように“天使=人間の形を取って現れる”場合もとても珍しいのです。「福音書」で、イエス様に仕えるために遣わされる場合を除くと、人間にわざわざ天使が遣わされているのは2つの場合しかないのです。それが“誕生の予告”と“復活の知らせ”です。どうしてこの2つなのでしょう？

その理由は明確です。2つとも、とても信じられない出来事だからです。神の子が生まれる、しかも聖霊によって身ごもることなど信じられませんが、また、死人が蘇る、復活することもあり得ないと思うでしょう。しかし、マリアにしてもヨセフにしても、或いは三日目の朝、墓に向かった女性たちにしても、彼らがこの出来事を信じて受け入れてもらわなければ、神様の救いの業が始まらないのです。故に、まさに信じられるように、説得するために“人の形を取って”現れると言い得るのです。逆に言えば、その点でヨハネの誕生もまた信じられない出来事であり、かつザカリアとエリサベットの夫婦が受け入れてくれないと主の救いが始まらない、重要な出来事であったと言い得るのです。天使を見て「恐怖の念に

襲われた」ザカリアに対して「恐れることはない。あなたの妻エリサベトは男の子を産む。その子はあなたにとって喜びとなり、楽しみとなる」と天使は語り掛けます。なんとかしてこの出来事を受け入れて欲しいという言葉なのです。

もう一つ、実はイエス様がその“たとえ話や説教”の中で、天使を登場させられている言葉も多いのです。ただ、それらはほとんど《天のみ国や世の終わり、再臨》に関わる言葉であるのです。故に、私たちが死んだ後に向かう“天のみ国”やこの世の“終末や再臨”という出来事もまた『信じられない、信じにくい出来事』だと言い得るのでしょう。それは、天使や聖霊の導きなくしては“信じられない出来事”です。だからこそ『主よ信仰を与えてください』と祈りましょう。私たちにも“天使”が遣わされることはあり得るのだから！

【今週の集会】

*聖書研究・祈禱会 I. 2月21日(水) 20:00
II. 2月22日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答

祈禱主題: 教会総会を覚えて

担当者: (水) 岩井 (木) 坂田

祈りに覚える人: 松田さん 松山さん

*ハンナの会 2月20日(火) 10:30~

【教勢報告】

主日礼拝 男23 女52 計75

祈禱会 I. 男7 女2 計9 II. 男1 女10 計11

日曜学校 幼稚科4 小中科9 計13

【次週主日礼拝】 2月25日(日)

聖書: 詩編 40:1~18

ヘブライ人への手紙 10:1~10

説教: 「詩編④ — 御覧ください、私は来ています」 武田真治 牧師

讃美歌: 307(1)、32、313(1~5)、470(1~3)、492(1~5)、90(1)

【次週当番表】

司式: 齋藤長老 奏楽: 羽倉 礼拝: 保坂長老

献金: 伊藤 伊藤り 受付: 金刺 坂田

会堂準備: 大野 勝村 黒澤 鶴巻

西

看板: 中村裕 週報: 飯島 お花: 飯島

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会

礼拝後: ・伝道委員会 ・教会総会

2024年 2月 18日

日本キリスト教団 上尾合同教会

牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33

TEL&FAX 048-771-6549

<http://www.ageo-church.org/>